## 第8章

# レスキューストックヤードの活躍

七ヶ浜町ボランティアセンターの活動を振り返るとき、名古屋から駆けつけてくれた NPO 法人レスキューストックヤードの活躍を紹介しないわけにはいかない。彼らとの 関係があったからこそ、町域全体におよぶ多彩な活動が実現したのである。

- 8.1 活動の紹介にあたって
- 8.2 レスキューストックヤードの活動

### 8.1 活動の紹介にあたって

#### 8.1.1 いち早く活動を開始してくれたレスキューストックヤード

七ヶ浜町災害ボランティアセンターの運営を語るうえで、特定非営利活動法人レスキューストックヤード(以降、レスキューストックヤード)を欠かすことはできません。

平成 18 年 1 月、七ヶ浜町社会福祉協議会は、"忘れるな 99.9% 必ず来るぞ 宮城県沖地震" と題した、災害ボランティアセミナーを七ヶ浜国際村にて開催。その時の講師として、レスキューストックヤード代表理事栗田暢之氏をお招きしました。この講演を契機にレスキューストックヤードの賛助会員となっていた経緯から、東日本大震災後いちはやく七ヶ浜町の支援に駆けつけてくれました。

3月13日にレスキューストックヤードの先遣隊が社協事務所に訪れて現状を確認し、3月24日に本格的に七ヶ浜町での活動を開始してくださいました。「大きな災害が起こった際には、真っ先に七ヶ浜町を支援します。」と代表が言ったことが現実となりました。

「遅くなってごめんね。」そう言ってレスキューストックヤードのスタッフが七ヶ浜町入りしてから最初に行ったことは、地元の中高生や若者を中心としたボランティアメンバーに対する炊き出しでした。水道やガス、ガソリンや物流が復旧せず、地元のボランティアさんの食事は徐々に少なくなっていた現状があり、体力的にも限界に差し掛かっていた時期でした。「あのときのおにぎりととん汁の味は忘れない。」と当時のボランティアさんは言います。

それと同時に、七ヶ浜町災害ボランティアセンターへの支援も開始。県外からのボランティアを受け入れるための体制づくりや効果的・効率的な配置についてアドバイスをいただきました。また、圧倒的に不足していたヘドロの掻き出しや家屋からの瓦礫の撤去に必要な資機材を、全国に呼びかけて迅速に導入してくださいました。その後は名古屋からのボランティアバスを定期的に運行してボランティアを確保し、足湯を中心として、地元住民の声に耳を傾け、住民に寄り添って声なき声をたくさん拾い上げてくれました。

言葉では言い尽くせないほどの大きな感謝の念はございますが、次ページよりその活動の 一部を紹介させていただきます。

<七ヶ浜町社会福祉協議会 小野 哲>

#### レスキューストックヤードの活動 8.2

## 8.2.1 七ヶ浜町におけるレスキューストックヤード活動年表

## ◆平成 23 (2011) 年

	-
3.13~3.20	先遣隊としてスタッフ1人が被災地入り
3.24~3.30	支援活動第1陣としてスタッフとボランティア計7人が現地入り
3.28~4.2	第2陣計6人(現地で1人合流)が七ヶ浜で支援活動
4.7~4.11	第3陣(運転手、マスコミ関係者含め17人)が七ヶ浜で支援活動
4.23	七ヶ浜に滞在拠点「ボランティアきずな館」オープン
4.29~	第4陣出発。以降、ボランティアバスを定期的に運行
5.6~5.10	名古屋で「うるうるパック」4,000 セットを袋詰め、町内小中学校な
	どに配布
5.6	第1回仮設住宅入居者説明会「仮設住宅ってどんなとこ?相談交流会」
	(以後、計6回開催)
5.14~5.15	表札プロジェクト「まごころ表札づくり」スタート
5.16	七ヶ浜国際村で「たべさいん」プロジェクト開催
6.30	「きずな喫茶オープンカフェ」開設
7.2, $7.4 \sim 7.5$	応急仮設住宅、在宅避難者・みなし仮設「せともの市&喫茶イベント」
	開催
7.3	つながる遊び庭・こどもアートしちがはま「音のワークショップ」開
	催
	(以後 2012 年度まで月 1 回程度の親子支援イベント開催)
7.30	「浜再生プロジェクト」ビーチクリーンスタート(9月10日まで毎週
	土日開催)
9.10	震災から1周年イベント「菖蒲田浜復興まつり」開催
10.23	在宅避難者・みなし仮設への支援「芋煮会」開催
10.27	ものづくり工房で紀宝町への応援グッズ
	「かえるちゃんタオル人形とメッセージキーホルダー」作成
11.12	地元漁師とともに「ボッケ汁まつり」開催
11.20、11.27	仮設店舗・七の市商店街「ハッピードリーム看板を作ろう」開催
12.6	「きずな工房」オープン、設置. 運営サポート
12.11	七ヶ浜仮設店舗「七の市商店街」オープン、設置. 運営サポート
12.12~12.13	「うるうるお歳暮パック」配送
12.23~12.24	

#### ◆平成24 (2012) 年

1.7~1.8 名古屋から「寒中見舞いプロジェクト」でハガキをお届け 1.25 きずな工房で「貝雛講座」開催 1.29 仮設店舗七の市商店街「七の市」開催(以後、毎月最終週の日曜日間 3.11 「たべさいん&RSY ボラバス大交流会」開催 4.29 湊浜元気まつりに協力 5.3 七の市商店街交流会(大阪・上町台地の皆さんと)	昇催)
1.29 仮設店舗七の市商店街「七の市」開催(以後、毎月最終週の日曜日 3.11 「たべさいん&RSY ボラバス大交流会」開催 4.29 湊浜元気まつりに協力	<b>昇催)</b>
3.11 「たべさいん&RSY ボラバス大交流会」開催 4.29 湊浜元気まつりに協力	開催) 
4.29 湊浜元気まつりに協力	
5.3 七の市商店街交流会 (大阪・上町台地の皆さんと)	
5.16 きずな工房木工講座	
5.17 ボランティアきずな館でAED講習会(以後AED設置)	
6.3 お料理交流会(公志会)開催	
6.15 お料理交流会(フィリップモリスジャパン株式会社)開催	
6.23 みなし仮設交流会名古屋カフェ	
6.31 トライアスロン物産展に協力	
7.1 親子すまいるフェスタ に協力	
7.21 避難者のつどい@国際村に協力	
7.27~7.29 海祭りに協力	
8.11 NaNa5931 名古屋公演に協力	
8.21 NaNa5931 東京公演に協力	
8.28 Wa-syoi 夏祭り に協力	
9.11 わかめ漁サンドバッグ詰めに協力	
9.24 きずな工房講座 (音つむぎネット)	
10.11 芋煮会@子育て支援センター に協力	
10.20 あさひ園祭りに協力	
11.4 ボッケと収穫祭に協力	
11.24 七ヶ浜を食べよう!ボッケパーティーに協力	
12.16 みなし仮設クリスマス会に協力	
12.21 子育て支援センタークリスマス会に協力	
12.23 七の市商店街1周年感謝祭に協力	
12.24 サンタが家にやってくる2012に協力	

#### ◆平成 25 (2013) 年

1.15	子育て支援センター餅つき大会に協力
1.26	子育て支援センター豆まきに協力
1.27	あそぶさございん七ヶ浜 de お正月に協力

3.6	名古屋の坊主 念珠作り
3.16	3・11 メモリアルイベント「絆」開催
3.31	きずな館閉所式
4.4	きずな公園づくりワークショップを開催
4.26	語り部勉強会へ協力
5.26	きずな公園看板づくりワークショップを開催
7.15	きずな公園オープニングセレモニー開催
7.27	きずな工房夏休み子ども木工教室に協力
$7.27 \sim 7.28$	海まつりに協力
8.10	七ヶ浜町民夏まつりへ協力
8.31	きずな公園モニュメントワークショップ7つのおうち作りを実施
9.7	みなし仮設交流会を開催
9.8	汐見台地区交流事業へ協力
9.21	語仮設集会所にてきずな工房ミニ木工教室を開催
9.22	親子すまいるフェスタ 2013 へ協力
10.19	農地復旧感謝祭へ協力
10.20	あさひ園まつりへ協力
10.23	子育て支援センター芋煮会へ協力
11.6	野外活動センター仮設集会所にてきずな工房ミニ木工教室を開催
11.16	七ヶ浜を食べよう復興ボッケ祭り 2013 に協力
11.20	被災者が一番伝えたいことを次の被災者につなぐ事業第 1 回ワークショッ
	プを開催
11.30	第1回きずな公園 DAY を開催
12.2	第1回七ヶ浜町住民車座トークを開催
12.13	被災者が一番伝えたいことを次の被災者につなぐ事業第 2 回ワークショッ
	プを開催
12.20	子育て支援センタークリスマス会へ協力
12.23	仮設店舗七の市商店街 2 周年イベントに協力
12.24	サンタが家にやってくる 2013 を開催

## ◆平成 26 (2014) 年

1.26	あそぶさございん七ヶ浜 de お正月へ協力
2.17	第2回七ヶ浜町住民車座トークを開催
3.1~3.2	きずな工房2周年発表会に協力
3.8	語り部研修会を実施
3.11	七ヶ浜町慰霊祭へ参列

3.15	3.11 メモリアル企画 UMI-TSUNAGU(う・み・つ・な・ぐ)
	~10万人の七ヶ浜人と共に~共催
3.23	被災者が一番伝えたいことを次の被災者につなぐ事業報告会を名古屋で実
	施
3.28	第2回きずな公園 DAY を開催
4.13	復興グルメF-1大会 in 七ヶ浜に協力
4.29~4.30	七ヶ浜町民を連れて石川県穴水町訪問。第3回住民車座トーク in 穴水町開
	催
5.31~6.1	応急仮設住宅-風除室雨漏り修繕
6.8	七ヶ浜町田んぼアート 2014 に協力
6.22	安城市と七ヶ浜町の文化交流会に協力
6.29	第1回松ヶ浜地区公営住宅入居者懇談会に協力
6.24	第4回住民車座トーク開催
7.19	愛知県大府市「歌の交流会」へ協力、愛知県高浜市「炊き出し交流会」へ
	協力
7.20	きずな公園一周年記念 夏まつり開催
7.27	第2回松ヶ浜地区公営住宅入居者懇談会に協力

#### 8.2.2 レスキューストックヤードの多彩な活動

#### ◆ 災害ボランティアセンターへの支援



炊き出しのようす(2011年4月)

レスキューストックヤードの第 1 陣が七ヶ浜町に 入り、真っ先に行ったのが災害ボランティアセンター の支援である。

資器材や物資を提供するとともに、まさに飲まず食 わずで活動する社会福祉協議会の職員や、ボランティ アに駆け付けた地元の中高生らのために炊き出しを 行った。炊き出しはヤマヤ物産の大型炊き出し器「ま かないくん」を使い、あいち生協からいただいた食材 を調理。「温かい汁物を食べるのは震災後初めて」な どと喜ばれた。

#### ・避難所での支援



仮設住宅入居説明会のようす(2011年5月)

## 公民館や小学校の体育館など当初、町内5カ所に設 けられた避難所では、足湯ボランティアのほか布団や 間仕切りの提供、仮設トイレへの洋式便座や手すり、 階段の設置、下着や靴下の提供などを行った。

仮設住宅の建設が進むと、入居前の不安を少しでも 取り除いてもらおうと、新潟県中越地震(田麦山)や 能登半島地震(穴水町)、新潟県中越地震(刈羽村)、 岩手・宮城内陸地震(耕英地区)などを経験した方た ちを招き、仮設入居に関する情報提供と、被災者同士 の交流を図ってもらった。

#### ▶ 足湯ボランティア



避難所での足湯ボランティア(2011年3月)

住民とボランティアが一対一でゆっくりと会話を 交わし、住民の声である「つぶやき」を聴く活動。 話す内容は主に何気ない日常会話だが、中には悩みや この先の不安などを話される方も。それらをまとめ、 専門機関などにつなげて個別化した課題を解決でき ることもある。実施回数は2011年3月から累計270 回を超え、利用された住民は延べ3,300名、活動した ボランティアは延べ 1,700 名。「足湯で来るボランテ ィアさんと会うことが楽しみになっている」という声 も少なくない。現在もボランティアを募集しており、 宮城県内の大学生とも連携をしながら活動を続けて いる。

#### ◆ ボランティアきずな館の運営



きずな喫茶のようす

レスキューストックヤードの支援活動拠点兼ボランティアの宿泊施設「ボランティアきずな館」は、まさに何もないところから築かれた施設。初めはエアコンも無かったが、「きずな喫茶」として開放した共有スペースには町民が寄っていただけるようになり、ボランティアの生活環境も日々改善されていった。 当初は1年間の予定だったが、現地からの要望とご厚意で運営期間が延長され、2013年3月31日まで運営された。

#### ◆ たべさいんプロジェクト



避難所を回り、漬物を配るメンバー(2011年5月)

2011年5月、レスキューストックヤードとつながりのある愛知県安城市の農園や宮崎県の新燃岳噴火災害被災地から提供された野菜で漬け物をつくり、避難所に配る「たべさいんプロジェクト」が始まった。プロジェクト名は「どうぞ召し上がって」という意味の方言にちなんでいる。「七ヶ浜町婦人と暮らしを考える会」、「ゆいの会」の皆さんや地元ボランティア有志の皆さんが、ボランティアきずな館のキッチンを活用して調理。避難所で「こんにちは一」と声をかけながらお年寄りたちに漬け物を手渡しすると、「食欲が出てきたよ」「ありがとう」と会話も広がり、野菜不足解消にもつながった。

この活動は避難所が閉鎖するまで続いた。

#### ◆ 応急仮設住宅への支援



表札づくりワークショップ(2011年6月)

応急仮設住宅への入居が始まると、とじこもりがちになる独居高齢者らの個別訪問を重ねて 困りごとを 把握したり、集会所を利用してもらうよう声を掛けたりした。 また、津波で流された家屋の材木を特別にいただき、加工した板で入居者の「表札」をつくって取り付けた。地元の中学生にデザインしてもらった表札は、「星」が輝いていたり、本物の貝殻がついていたりする素敵なものばかりだった。 殺風景だった集会所も飾り付けて居心地をよくし、カフェを運営して住民やボランティアの集いの場に。足腰の弱い要援護者宅には手すりをつけ、外出しやすくした。

#### 大規模半壊以上の被害を受け在宅で生活する方への支援



名古屋の大学生による交流会「名古屋カフェ」(2011年 8月)

居住地が町内外に分散し、生活状況がつかみにくい 方々には、物心両面の支援が届きにくいという課題が ある。2011年6月に岐阜県瑞浪市の支援で開いた「せ ともの市」でこうした方々の声を聞いたことをきっか けに、町や社会福祉協議会と連携して月1回ほどのペ ースで喫茶や季節のイベントを開催。年末には約300 世帯に生活支援セット「うるうるお歳暮パック」や布 団などをお届けした。名古屋大学や名古屋学院大学、 「もっと HOT プロジェクト」、災害ボランティア活 動支援プロジェクト会議、愛知県内の企業・ボランテ ィア、「ボランティア友の会」、

民生委員などの皆さんから多大なご協力を賜った。 現在は、社会福祉協議会が中心となり、個別訪問や通 信誌の発行などを継続している。

#### 浜再生の支援



菖蒲田浜海浜清掃のようす(2011年8月)

## 海のまち・七ヶ浜にとって浜の再生は復興の象徴。 レスキューストックヤードはボランティアセンター による浜の清掃や、サーファーらによる「ビーチクリ ーン」活動などに積極的に関わらせていただいた。震 災半年の節目には菖蒲田浜での復興まつりに参加し、 「日本最古の海水浴場」といわれる愛知・大野海岸の 砂をまいて浜の再生を祈願した。

#### 漁業支援



2013年10月に設立された七ヶ浜ぼっけ倶楽部七友 会のロゴマーク

七ヶ浜町の基幹産業の一つである漁業も津波によ って壊滅的な被害を受けた。レスキューストックヤー ドは 地元漁協を中心に「魚をとってこその漁師だ!」 と再起をはかる漁師らを応援すべく、企業との調整な どに当たった。 重機メーカーのコマツ (株式会社小 松製作所)からはフォークリフトが7つの浜に1台ず つ提供され、ブラザー工業株式会社にはワカメ漁師ら に漁具を支援していただいた。 また、津波で家や船、 漁具、生活の基盤のすべてを失いつつも、刺し網・素 潜り漁を再開した2人の地元漁師が立ち上げた「七ヶ

浜ぼっけ倶楽部七友会」の運営と産地直送の販売促進をサポート。2013年10月から七ヶ浜名物ぼっけ汁とワタリガニのセット、白魚と生わかめのセット、ワタリガニとアワビのセットを順次販売している。また、レスキューストックヤード名古屋事務所で「七ヶ浜を食べる会」を開き、会員やボランティア約20名が参加。「被災地を忘れない」「名古屋からも応援し続ける」機会となった。漁師とボランティアバスメンバーが直接触れ合う交流企画なども現地で開いている。

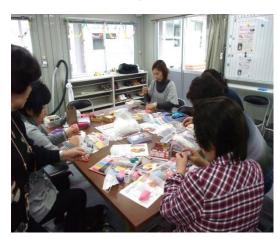
#### ◆ 親子支援



木粘土ひな人形づくり(2013年2月)

「お母さんを支えることが、子どもを支えることになる」という考えから、未来予想図実行委員会や「海の学校」、町の子育て支援センターと共同で、創作活動を中心とした親子イベントを2012年度まで月に1回ほど開催。「遊んで学べるものづくり」や「音のワークショップ」、LUSHジャパンの皆さんによるハンドマッサージなど、親子が一緒に楽しめる企画が好評だった。 地元の「ママさんボランティア」も運営スタッフとして参加してくださるようになり、地元の力が活きる取り組みになってきている。現在は子育て支援センターの行事などに対し運営サポートを行っている。

#### ◆ きずな工房の設置・運営サポート



手芸品の作成のようす(2011年12月)

大規模半壊以上の被害を受けた方を対象に 2011 年 12 月、七ヶ浜町社会福祉協議会が主体となって「きずな工房」が開所、レスキューストックヤードは会計や名古屋での販売促進を中心に運営をサポートしている。

ブラザー工業からミシンをご寄付いただき、裁縫や木工のモノづくりを通じて住民同士が交流できる場となり、生きがいや収入を得ることによる生活支援、引きこもりや生活不活発病の予防にもなっている。木工部門ではテーブルや椅子、裁縫部門では巾着袋やエコバッグなどを制作し、町内外の様々な機会に販売している。売り上げの一部は制作者に還元されると共に、購入者からお手紙をいただくなど、人のつながりも広がっている。

#### ◆ 七の市商店街設置・運営サポート



七の市商店街オープニングセレモニー(2011年12月)

2011 年 12 月 11 日、七ヶ浜町生涯学習センター敷地内に仮設店舗「七の市商店街」がオープン。レスキューストックヤードはこれまで寄せられた寄付金を活用しつつ、きずな館のプレハブ提供元の総合レンタル会社、近藤産興株式会社からさらなるご厚意をいただき、名古屋からテーブルや椅子、棚や冷蔵庫などの店舗資器材を調達。

また、地元の向洋中学校美術部や町内外のボランティアら約 100 名は、名古屋造形大学やさしい美術プロジェクトや未来予想図実行委員会とともに各店舗の看板を手作りし、店主たちに贈った。七の市商店街は月 1 回のミーティングやイベント運営、オリジナル商品である七ヶ浜町の食材を使った「七ヶ浜復興バーガー」や「七宝汁」の開発を行い、「町の憩いの場所にしたい」、「七ヶ浜町が頑張っているところを見せたい」という想いを形にしようと奮闘している。 テレビ、ラジオの報道も多くなり、さまざまなイベント会場として町民にもなじみの場所になっている。町内外の企業や団体、ボランティアの方々から継続的な支援もあり、当法人も運営のサポートを続けている。

#### ◆ 七ヶ浜復興応援サポータープロジェクト



交流企画「七ヶ浜を食べよう!復興ぼっけ祭り 2013(2013年11月)

「ボランティアにとって七ヶ浜町を『被災地』ではなく『また訪れたい場所』にしてもらうため、内から外への情報発信をしよう」と、復興に携わる地元団体と連携し、2012 年9月から始まった。「七ヶ浜の今を伝える」ブログ、フェイスブック、ツイッターを定期的に発信。フェイスブックの「いいね!」数も1,000を超え、七ヶ浜町民の登録も増えている。年に数回の「ボランティアと町民をつなげる交流企画」も開催している。

#### ◆ きずな公園

「震災後も安全に遊べる場所が欲しい」という母親の言葉がきっかけとなり、2013年7月15日にオープン。ブラザー工業(株)、(一社)名古屋建設業協会、生活協同組合連合会アイチョイス、国際ソロプチミスト名古屋、名古屋造形大学やさしい美術プロジェクトなどから支援をいただ



きずな公園で遊ぶ子どもたち(2011年11月)

いて設置された。子どもを含め約 30 名の住民が参加したワークショップを経て、ボランティアと共に看板や椅子、 復興モニュメントを作成し、園庭に設置。現在は定期的に 清掃やイベントを開催され、賑わいの場となっている。

#### ◆ 七ヶ浜住民車座トーク



第2回車座トーク(2014年2月)

「災害ボランティア支援プロジェクト会議(支援 P)」応援 資金の助成を受け、高台や災害公営住宅への移転を前 に住民が個別に抱える漠然とした不安や課題をはき出 し、ともに解決策を考える場を設けた。日本災害復興学 会復興支援委員会との共催で、阪神・淡路大震災や新 潟県中越地震等の復興支援経験のある有識者や支援団 体スタッフが聞き手や情報提供者としてサポート。

今までに 4 回開催し、「誰に相談してよいか分からなかった」「解決できないとあきらめていた」「聴いてくれる人がほしかった」などの声が聞かれ、土地売買の課題を抱えていた住民を司法書士につなぎ、アドバイスを得て問題解決に繋がった事例も生まれ、「今後も続けて開催してほしい」との要望も上がった。

#### ◆ 教訓を残すヒアリング 被災者が一番伝えたいことを次の被災者につなぐ事業



名古屋で開催された防災フォーラム(2014年3月)

「災害から大切な命を守るために、町の子どもたちや次の被災地のために私たちの体験を伝えたい」という町民の声がきっかけとなり、平成 25 年度日本郵便年賀寄付金助成を受けて実施。スタッフが半年をかけて約 20 名の町民に震災当時の体験談を聞きとり、「津波」「避難行動」「避難所生活」「仮設住宅」の場面に分類して冊子にまとめた。3月23日には町民14名を名古屋に招き、名古屋国際センターを会場に成果報告会「防災フォーラム〜被災者が一番伝えたいこと」を開催。七ヶ浜で活動したボランティアを中心に116名が参加し、あらためて被災地から学び、交流する機会となった。